2019年11月26日　住宅新報

「埼玉の賃貸にIoT電球　高齢者の見守り図る」

埼玉の賃貸にIoT電球
高齢者の見守り図る
ビレッジハウスMなど

全国で低費用の賃貸住宅約10万戸を運営するビレッジハウス・マネジメント（東京都港区、岩元龍彦・工藤健亮共同代表、以下ビレッジハウス社）は11月30日から、高齢者向け生活支援サービスを展開するホームネット（東京都新宿区、藤田潔社長）と提携し、埼玉県さいたま市の賃貸住宅「ビレッジハウス大谷」で高齢者の安否確認を目的としたIoT電球「ハローライト」を試験導入する。

「ハローライト」は、点灯と消灯の状況をチェックし、1日間動作が確認できない場合には登録した連絡先にメールで知らせるというIoT電球。シンプルな機能ながら、1日中ずっと点灯し続けている、または全く点灯しないなど、けがや病気の疑われる状況に対応している。LEDとSIMを一体化させ、確認・通信など必要な機能を電球1つで完結させている点も特徴。ビレッジハウス社は「プライバシーを損なわずに単身高齢者の自然な見守りに役立つ」としており、今回の試験導入の結果を基に導入エリアの拡大も検討していく。